

新任教員による 研究紹介セミナー

基礎研究棟 1階 大学院セミナー室

6.08(木) 17:00-19:00

「みなす講演会」

セミナー終了後の情報交換会への参加と小テストを加えて、研究方法論（基礎・応用）の授業に出席したとみなす講演会とします。これらすべての時間を受講した大学院生に受講印を押印します。

17:00-17:30

演者1

宮崎 晴子 (みやざきはるこ)
分子医化学 助教

中枢無髄神経の存在意義について考える

脊椎動物は進化の過程で髄鞘を獲得し、神経の伝導速度を飛躍的に上げることに成功しました。一方で無髄神経は進化的に遅れた系とされ、その機能的意義についてはこれまでほとんど議論されてきませんでした。

私はもともとハンチントン病モデルマウスを使って病態の分子メカニズムを解析していましたが、その過程で病変部位の線条体投射神経が無髄神経であることに気付き、そのほとんど無視された存在である無髄神経に興味を持ちました。研究半ばではありますが、中枢無髄神経についてこれまでわかったことについて紹介します。

どなたでもご自由に参加できます

17:30-18:40

演者2

下向 敦範 (したむかいあつのり)
人体構成学 講師

神経幹細胞の振る舞いから理解する哺乳類の脳形成 ～組織内でのイメージングと細胞操作によるアプローチ

哺乳類の脳は、大きさや形態が多様ですが、その違いを生み出す脳発生の仕組みはまだ十分に理解されていません。その解明を目指し、胎生期の神経幹細胞の振る舞いについて、ショウジョウバエで示された細胞運命決定のモデルの検証から始まり、ライブイメージングによる直接的な観察や細胞操作の手法を使用して、哺乳類の神経幹細胞の持つ共通項を探ってきました。そこから、思いがけず、ヒト脳の拡大化に寄与するとされるヒト型の神経幹細胞の産生原理のモデル提唱へとつながった一連の研究、そして、最新の研究結果であるヒト型の神経幹細胞の産生に関わる“上皮構造の構築能力の変遷”について紹介します。

18:40-19:00 情報交換会

ECM Society Seminar 共催

<お問い合わせ>
分子医化学 大橋俊孝
oohashi@cc.okayama-u.ac.jp
人体構成学 川口綾乃
akawa@okayama-u.ac.jp